

文化・芸術

「アトリエのなかで制作中の『リー』」

2021年、23・0センチ×18・0センチ×15・0センチ、
石粉粘土、アクリル絵の具
(撮影 木暮伸也)

平田 歩 (1967年)

「リー」と名付けた、角の生えたゴドモのフイギュアを作りつつける平田歩。6畳ほどのスペースには、机があってその上で制作をするのですが、まわりにはあっちこっちに作品がならべられ、まさに作品に囲まれて制作しています。そうしたアトリエの情景を見たところから、いっそアトリエそのものを美術館に持ち込むことにしました。アトリエ全体を見てもらうことにして、しかもときどきご本人にそのアトリエで制作してもらおうことにしています。

さて、どの《リー》も怒っていたり、泣いたりしています。これは、作者のつぎのような言葉からわかるように、作者の世の中に対する熱い思いをこめた分身だからです。

「簡単に不機嫌に不作法に力を使い人権を無視する。だから立ち止まり振り返って問い続けなければならぬ。『お前はそれでいいのか』と。だから笑っている《リー》は作らない」
(田中)

《名画の扉》

大川美術館「桐生のアーティスト
2021 Kiryu POP」から

